

令和5年

第1回教育委員会会議録

(開会 令和5年1月19日)

(閉会 令和5年1月19日)

岐阜県可児市教育委員会

令和5年1月19日午前9時00分開会

会場：市役所4階第3会議室

出席委員

堀部好彦君（教育長）

長井知子君（教育委員）

小栗照代君（教育委員）

伊藤小百合君（教育委員）

欠席委員

梶田知靖君（教育委員）

説明のために出席した者

渡辺勝彦君（事務局長）

佐野政紀君（学校教育課長）

三宅愛彦君（教育研究所主任指導主事）

福田真弓君（学校教育課学校支援係長）

梅田浩二君（こども課長）

飯田晋司君（教育総務課長）

佐藤一洋君（学校給食センター所長）

真野純次君（学校教育課指導主事）

木村千恵君（学校教育課学校支援係）

出席委員会事務局職員

木村彰伯君（教育総務課総務係長）

小池拓哉君（教育総務課総務係）

日程及び審議結果

1 開 会

2 教育長報告

3 教育委員報告

4 議 事

①報告第1号 令和5年度全国学力・学習状況調査の参加について（原案承認）

②議案第1号 可児市幼稚園園則の一部を改正する規則の制定について（原案可決）

③議案第2号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について（原案可決）

5 各課所管事項

6 委員からの提案協議事項

7 その他

8 閉 会

開会の宣告

- 教育長（堀部好彦君） おはようございます。

令和 5 年第 1 回の教育委員会会議を開催させていただきます。

定足数につきましては、出席委員が過半数を満たしておりますので、この会議は成立するということによりよろしくお願いいたします。

教育長報告

- 教育長（堀部好彦君） では、まず私からの報告でございますが、2つ報告をさせていただきます。

1つ目、成人式、1月8日に私参列をさせていただきました。成人代表が成人式のテーマ、今年は「紡ぐ」であるというふうに語っていました。私たちの過去は、仲間や恩師、親や地域の方々と紡いできた。そして感謝の気持ちを忘れず、これからも私たちは様々な人と関わって、共に未来を紡いでいくと語っていました。

こういう思いで成人式を迎えた彼らが、式の終わりにさらに代表と共に誓い合っていたことがありました。何を誓い合っていたかという、「今を楽しもう」と言っていました。この言葉は、何か一見、刹那的に思える言葉なんですけれども、実はこの彼らの誓いは深いなあと思いました。簡単に言いますと、彼らの思いは、例えば今年でコロナ禍4年目ですよね。仲間と共に紡ぐはずの青春は、コロナに翻弄されて充実感が乏しい月日がずうっと流れている。国際情勢も国内情勢も本当にいい話がない、暗い話題で心が痛むということが多いんですが、そんな中でも、少しでも充実感を持てるものを求めていこうと彼らは言っていた。その充実感を、未来を紡ぐエネルギーにしていこうとも言っていました。ということで、成人式で誓っていた「今を楽しもう」というその思いはこの4年間のつらい生活の中で出てきている思いなのかなあと思いました。

ということで、彼らが幸せな未来を生きることを本当に切に願うばかりです。私が同時に感じていることは、これはこの前の校長会で校長先生方にもお伝えをしたが、先生方も子供たちも同じように、この3年間つらい思いというか、暗い世相の中で、でも必死になって先生方が頑張ってくださっている。子供たちも一生懸命仲間と共に頑張っている。そういう中で4年目に突入ということですよ。

そこで、私は校長先生方にお話をしているのは、4年目に突入の世の中、学校教育に携わる者としての覚悟を先生方にきちっと持ってもらいたいなあと伝えました。じゃあ、その覚悟ってどうやったら生まれるかという、私は、この3年間の中で先生方が教育活動を工夫して、新たに創造して、心配やけど、よし、やるぞと断行してきたことのすばらしさをうんと褒めてやることじゃないかなあ。3年間よく頑張っている。これを1か月2か月じゃないよと、1年じゃないよと、3年間頑張り続けていることの値打ちを校長先生方に語っていただくことが、4年目に向かうエネルギー、覚悟を生み出すことになるんじゃないかなあと伝えておきました。成人式で感じたことが1点目です。

それから2点目ですが、昨日、実践論文の審査会がありました。教育実践論文審査会、可児市の先生方の中で、自分の取組をテーマを決めて研究的に取り組んで、それを書面にして、論文として出してくださっている方がいらっやあって、そういう審査会があり

ました。

大変すばらしいことなんですけれども、その中で紹介したい先生がいらっしゃいます。土田小学校の2年目の男性の先生です。この先生の論文のテーマは外国籍児童が多数在籍する学級における歴史学習の在り方ということで、難しいですよ、外国籍の子供に日本の歴史を教える。採用2年目で頑張っている。それを論文にまとめてくれた。それだけでも私すばらしいなあと思うんだけど、さらにこの先生、日本国籍じゃない、外国の方なんですよ、外国籍。日本で生まれたようなんだけど、親さんが外国籍で、愛知県で小・中学校育って、今、岐阜県で教員をやっているということなんやね。だから、思いが違うんやね。自分が外国籍の子供として育ってきた。そういう中で苦労してきたこと、頑張ってきたこと、そういうのがベースとなって、外国籍の児童のためにという志を持って歴史学習、社会科の専門なんでしょうね。これは本当にこんな論文が出てくるのは可児市ならではだと思っている。

彼が書いている言葉の中に、なぜこの取組をやろうとしたのかということ、これは土田小学校が日々研究的に取り組んでいることが、「たくましく生きる土田の子、あたたかく・かしこく・ねばりづよく」というような教育目標に向かって、主体的に自分の考えを持ち、仲間と共に学び合える子を目指してということに取り組んでいる土田小学校の取組の中に国際教育が位置づいている。日本語習得支援を中心とした外国籍児童への自己実現教育、ちょっと難しい言葉ですが、とにかく外国籍児童を大切にしたい取組を進めましょうよということで、校長が中心になって頑張っているんやね。そういった学校の取組の中で、さっき言った外国籍の先生は、よし、この学校で外国籍の子のために頑張ろうって、やっぱりさらに思いなんだと思います。

私は何が申し上げたいかというと、本当に可児市ならではの実践論文だなあと改めて感じるとともに、こういった学校の特色を大切にしていきたいなと思います。外国籍の先生がこんなにやる気になって頑張れる学校、学校の特色だと思います。私たちは、そういった学校の特色を16校つぶさに捉えながら応援してあげたいなあとと思うとともに、笑顔の学校づくりという第2期可児市教育振興基本計画というのがあるんですけれども、これが、第3期が来年度、もう今年やね。今年、この計画をつくっていく時期になっています。

この計画には、やっぱり私はそれぞれの学校の特色を生かして、子供たちを伸び伸びと育てるような教育活動になるようなという願いを込めたいなあと考えたときに、皆さんにはそれぞれの御担当の学校の特色というのをきちっとつかんでいただくとありがたいなあと。これまでいろんな研修で、学校を見る視点というのを皆さんそれぞれたくさん増やしてきておられると思います。そういった視点を基に訪問をされる、または学校だよりもいつも配られていると思うんですけれども、学校だよりもそういう視点で読んだときに、私が行っている学校の特色はこういう特色があるんだなあということをつかんでいただくと、この計画づくりのときにも、そんないろんな特色がある学校を、可児市の学校をさらに高めていくためにはどうしたらいいだろうかという議論に役立つのではないかなあと考えていますので、それぞれの学校の特色をつかんでいただきたいということもこの実践教育の審査会では感じ、今お伝えをさせていただきました。

以上で話を終わりたいと思います。よろしくお願いをします。

教育委員報告

- 教育長（堀部好彦君） では、教育委員報告に移りたいと思います。
- 教育委員（小栗照代君） おはようございます。

教育委員としての行事としてはありませんでした。昨年なんですけれども、東明小学校のほうの学校訪問に行っていました。5・6年生の宿泊研修とか、修学旅行のほうも無事に行っていましたということを校長先生からお伺いしました。ただ、病気で休んだというよりは、もともと参加しないという御家庭の御意向の方もあったということで、そういった方が参加できないというのちょっと寂しかったとお聞きしました。それから参観日なども行われまして、3日間に分けて保護者の方が重ならないようにということで、配慮してやっていただけたということです。

あと、子供たちの授業についてどうですかということで、これもコロナに関してなんですけれども、家庭科とか理科での実習のものは、1人一、二実習ということで、例えば半分ずつに人数を減らしてやるなどの対応をしながら実践をさせていただいているということです。以前ですとなかなか家庭科もできなかったんですけれども、今年はそういったことで対応していますよというような話をしてくださいました。

それから、昨日のことがありましたので、今朝また東明小学校の校長先生にお話を伺いしました。今日はそのクラスの子供たちに先生のほうからフォローということで、お話をしっかりしていただけること、今後のケアについてもしっかりやっていただけるということのお話を伺ってまいりました。以上です。

- 教育長（堀部好彦君） ありがとうございます。

学校の様子をきちっと訪問されて捉えてくださって、先ほどの話とつなげれば、本当にありがたいなあというふうに思います。そういった小栗委員の働きかけが校長さんとの信頼関係をつくっている。だから、昨日のことも連絡があったかと思います。本当にありがとうございます。

また学校行事で、先ほど私、断行と言いましたが、コロナ禍で3年間の中で断行です。よし、やるぞと。心配な面もあるんですけども、子供たちのために最大限配慮してやるぞと、その断行したことの誇りを感じてほしいと校長先生方に申し上げましたが、きっと工夫して学校行事をやったんだよとお伝えをされている校長先生には、そういった誇りが感じられたのではないかと思います。本当にありがとうございます。

- 教育委員（長井知子君） おはようございます。

私も教育委員としての仕事はありませんでしたが、先日、名古屋で中学生の子が名駅のタワーから飛び降りたことがありました。本当に誰かが、救ってあげられる人が一人でもいたらよかったなあ、きっと周りの方はいろいろされていたと思いますが、胸が痛みました。

私の友人が、西濃のほうで地域の方のつながれる場というのをつくっている友人がいます。子ども食堂的なこともやっていますが、ニュースなどで子ども食堂が安く食べられる場所と認知され、地域の人たちも利用していると聞き、当初の目的と変わってきていないかと感じ、実際そういうところってどうなのかを聞きました。しかし、本当に心が苦しい子にとっては、地域の人たちがたくさんいることが行きやすくなると言ってい

るのを聞いて、なるほどと思いました。

なので、可児市でもSOSの出し方をやっていて、すごくいいなあと思います。先生方も一生懸命やってくださっていますけれども、本当に苦しい子とかは、SOSを出さず、見えないところもあると思うので、出しやすい環境ということも意識していくといいのかなあと思いました。

あとは、先ほどの教育長の土田小学校のお話ですけれども、本当に土田小学校は学校の4分の1が外国籍ということで、学校訪問で行ったときにも、校長先生はじめいろんな先生方が、やっぱり文化の差があるので、どうしてもトラブルなどの起きる率が高いとおっしゃっていました。そんな中、若い先生が論文を書かれて、教員の社会だけじゃなくて、どこの世界でもそうだと思うんですけど、頑張っていることを、子供でもそうですけど、認めてあげるとか、その人がずうっと頑張っている、人によっては頑張っている何かやりがいがないなあとか、そういうふうに思えちゃうこともあると思うので、若い先生のそういう気持ちやそういった思いを周りがサポートなり、その方の気持ちをつなげていってあげられたらいいなあと思いました。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** 今の土田小学校の先生の話、本当にそのとおりだと思っていて、今彼について考えているのは、どうやって褒めていこうかと。論文審査の結果、賞があるので、賞で褒めてあげるというのももちろんあります。その先生が賞をもらえるかどうかというのはちょっと分かりませんが、賞がもらえるもらえないに関わらず、彼を褒めたいなあと思っています。可児市の初任者の先生方の今年度最後の研修が2月にあります。その研修会に彼を呼びたいと思っています。時間は急にねじ込む形になるので十分はないんですけど、彼の論文の紹介と、彼自身が話をしながら、どんな思いでどんなことに取り組んだのかを話をしていく。そこには、先ほど申し上げたように、きっと外国籍の者として育ってきたことの苦労だとか、そういった苦労が背景となって、今の目の前の子供たちに何とか力をつけてあげたいという志、その辺りをきっと話すんだろうと思うので、それを1年目の先生方に聞いてもらいながら、自分たちの志を新たにしてもらい、そして先輩のすばらしさに学んで、さらに頑張るぞなんていう気持ちになれるような研修ができないかなあと思っています。そういった場をつくることで彼を褒めたいなあと思っています。またその報告ができればいいかなあと思っていますが、御承知おきください。

- **教育委員（伊藤小百合君）** おはようございます。よろしくお願いたします。

教育委員としての活動は特にありませんでした。

先ほど教育長から成人式のお話がありましたけど、コロナ禍前ですと、一応出席という形で何回か成人式の場に、前のほうで見せていただく機会があったんですけど、たまたま当日にチャンネルを回していたら、やっていたのを見つけて前半の途中からだったんですけど、拝見しました。司会の子たちがゲームっぽいことをして、可児市の歴史を振り返ったりとか、給食のことを振り返ったりとか、「今を楽しもう」ということで参加型でやっていました。一部しか成人した人たちの姿も映っていなかったんですけど、結構おとなしくて、恥ずかしいということもあるんでしょうけど、冊子の色で、自分が選んだクイズの答えが前のほうの人に分かるという仕組みの中、こそっとやってみたり、前のほうの子たちと話しながらやってみたりとか、見ていて何かすごく素直だなあと思

って見ていました。

後半は自分の子供が通っている校区だったので、子供たちの先輩たちも映っているかなあと思い録画しました。子供と一緒にまた後で見たりもしましたが、中学校を卒業して一応成人式というか、成人が18歳になったんですけど、20歳でやっているの、5年ぐらい、こうやって成長していくんだなというのを改めて見ました。たまたま司会をしていた成人した人が知っている人の娘さんというのもあるって、コロナ禍で教育委員としてなかなか出向く機会も少なくなったので、いい機会だったなあというのを感じて見ました。

あと、うちのことなんですけれども、コロナ禍になってから家庭科の実習ができなくて、いろいろ家でやっているという話をこういう場や、学校訪問に行ったときに聞いていました。うちの子供も家庭でこういうことをやって、野菜を切って、切り方が幾つかあるから、それを選択して、最低限やらなきゃいけないことプラス、あと自分で2つぐらい選んでやらなきゃいけないと去年の12月に宿題を持ってきました。これまで全然やったことがなくて、すごい緊張していたみたいです。またそれをタブレットでやったものを撮らなきゃいけないとか。

- **教育長（堀部好彦君）** ああ、タブレットの活用はそういう。
- **教育委員（伊藤小百合君）** そうなんです。あまり家でそういうタブレットとかは、学校からそういうのがなかったの、私も話を聞いているだけで、実際にそういうことに携わるといことがなかったの、一緒になってこうやってやるんだとか教えてもらったりとか、やっぱり使いこなすはできているので、材料を切ったりとか、おどおどしながら何かやって、こっちから見ても危ないなあとか思いながら見ていたんですけど、でもそれは第1弾で、第2弾は料理を作るという。うちの子供は調べて肉ジャガを作ったんですけど、初めてだからまずいかもしれんって、そういう問題じゃなくて、やることに意義があるから、別にお母さんたちも初めてやったときはそんな調子よくできなかったからいいんだよと言って、一緒に楽しく過ごす時間が持ててよかったなあと感じました。以上です。
- **教育長（堀部好彦君）** いいえ、ありがとうございます。
タブレットの活用、そういうふうにはやっておるんやね。なるほどね。
- **教育委員（伊藤小百合君）** きちんと切ったやつを撮ったりとか、途中経過というんですか、作っている、ビデオとか動画で撮るんじゃないで、材料を入れたところを撮るとか、途中で煮ているところを撮るとか、そういうのをやっていました。
- **教育長（堀部好彦君）** いろいろ学校も工夫して、家庭への協力を求めながらということをやっているんやね。

あと、成人式につきましてもそうやって見ていただいて、改めて思ったんですけど、そういうのは教育委員さんも出席をされてお祝いをしていたということなんやね。なるほどね。

僕は代表の学生さんに声をかけておきました。すばらしい、「今を楽しもう」って深いよねと話ししたら、にっこりとうなずいてくれました。だから、そういった今の少しでも楽しいところを見つけて、その充実感を味わって、それをエネルギーにしていくんですと言っていました。本当に応援してあげたいなあと思いますね。ありがとうございます

ました。

議事

- **教育長（堀部好彦君）** では、次に議事に入りたいと思います。
- **事務局長（渡辺勝彦君）** では、議案書を御覧ください。
表紙の裏ページの目次のとおり、本日は報告1件と議案が2件です。
報告第1号 令和5年度全国学力・学習状況調査の参加についてです。議案第1号 可児市幼稚園園則の一部を改正する規則の制定について、議案第2号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、以上3件についてよろしくお願ひします。
- **教育長（堀部好彦君）** 議案第2号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、その他の児童生徒校内事故、問題行動、交通事故等の記録については、個人情報、プライバシーに関わる情報のため、教育委員会会議規則第14条の規定により非公開とすることとしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、この件については非公開とします。

報告第1号 令和5年度全国学力・学習状況調査の参加についてを議題とします。

- **学校教育課長（佐野政紀君）** 議案書の1ページを御覧ください。
報告第1号 令和5年度全国学力・学習状況調査の参加について。
令和5年度に実施される全国学力・学習状況調査の参加について、次のとおり専決処分したので、これを報告し、承認を求めます。令和5年1月19日提出、可児市教育長 堀部好彦。
記、専決処分書。
可児市教育長に対する事務委任規則第4条第2項の規定により、次のとおり専決処分する。令和4年12月15日専決、可児市教育長 堀部好彦。
記、令和5年度全国学力・学習状況調査に参加する。
詳細は、研究所主任指導主事より説明します。

- **教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君）** では、別冊になっております別紙1を御覧ください。

1ページです。

まず調査の対象ですが、小学校の6年生、そして中学校の3年生となります。教科に関する調査につきましては、小学校は国語と算数、中学校は国語・数学・英語となります。

2ページを御覧ください。

中ほど上、イにありますように、教科の調査と併せて質問紙調査という調査も行われます。

では、次、11ページに飛んでください。

11ページには、当日の調査の具体的な日程が書かれております。昨年度と大きく変わる点は、中学校においてオンライン方式の「話すこと」の英語の調査が行われるということです。中学校の英語ですが、3時間目に「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の調査があります。そして、さらに5時間目にタブレット端末を使いながら「話すこと」

についての調査があります。この「話すこと」の調査は、生徒が所有しているタブレットにマイクつきのヘッドセットをつなげて、オンラインで出題された内容について答えるというものになっております。

その他詳細につきましては、要領を御覧いただければと思います。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ただいまの事務局の説明について、御質問、御意見等ありますでしょうか。

よろしいですか。

[挙手する者なし]

先ほど説明がありましたように、期限が非常に短かったものですから、私が専決処分させていただきました。御了承いただきたいと思います。

では、次に議案第1号 可児市幼稚園園則の一部を改正する規則の制定についてを議題とします。

- **こども課長（梅田浩二君）** おはようございます。こども課です。よろしくお願いたします。

議案書に基づき、説明させていただきます。

議案書の2ページをお願いいたします。

議案第1号 可児市幼稚園園則の一部を改正する規則の制定について。

可児市幼稚園園則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。令和5年1月19日提出、可児市教育長 堀部好彦。

記1. 主な改正理由、夏季休園日及び預かり保育の実施時間を現状に則した規定に改めるもの。

2. 主な改正内容、第6条第2項第3号、夏季休園日を7月21日からとする。第12条、預かり保育の実施時間に係る規定を改める。

3. 施行日、令和5年4月1日。

4. 改正文、以下のとおりということで、具体的な改正内容につきましては議案書の3ページを御覧ください。

このたびの園則改正につきましては、主な理由で説明しましたとおり、瀬田幼稚園の現状に合わせ、規定を改めるものでございます。

まず、第6条第2項第3号に規定する夏季休園日につきましては、小・中学校の夏季休業日に合わせ、7月21日からとするものでございます。なお、現状におきましても、小・中学校の夏季休業日に合わせ、7月21日から8月28日までを夏季休園日としており、毎年園の重要事項説明書に記載し、全園児の保護者から書面で同意をいただき運用しているところでございます。

参考までに、冬季の休園日と学年末及び学年始めの休園日につきましては、小・中学校の休業日と全く同じ日程となっております。

次に、第12条に規定する預かり保育の実施期間につきましては、第1号の休園日以外の日においては、通常の教育時間終了後から午後5時30分までとあるのを午前8時から午前8時30分まで及び午後3時から午後5時30分までに、また第2号の土曜日・日曜日、国民の祝日等を除く夏季休園日、学年末及び学年始めの休園日においては、午前8時30分から午後5時30分までとあるのを午前8時から午後5時30分までに改めるものでござ

います。

この改正につきましても現状に合わせるもので、朝の30分間を預かり保育の実施時間に追加するとともに、「通常の教育時間終了後から」を「午後3時から」と明確な時間の表記に改めるものでございます。

なお、預かり保育につきましては、可児市幼稚園の設置等に関する条例第3条第2項の規定により、1人につき30分当たり50円の預かり保育料が発生いたします。これまで園則に規定がなかったため、午前8時から午前8時30分までは申出のある方の預かり保育を実施しつつも、保育料は徴収しておりませんでした。本規則施行後は預かり保育料を徴収するものでございます。

ただし、保護者の就業等で保育の必要性があると認定された児童につきましては、1か月の預かり保育料の合計額と1か月の預かり保育の利用日数に1日当たり450円を乗じて算出した金額を比較して、少ないほうの金額を上限として幼児教育・保育の無償化の対象となるため、今回新たに規定する朝の30分間で預かり保育料が発生しますのは、保育の認定を受けていない児童が随時で利用する場合、保育の認定を受けている児童が夏季休園時等に午前8時から利用する場合等に限られます。したがって、該当となる保護者の方は限られてくると考えておりますが、いずれにしましても、保護者の皆さんに理解が得られるよう丁寧な説明に努めてまいります。

あわせて、別記様式第2号の幼稚園預かり保育申請書中の「㊟」の表記につきましては、既に押印を廃止している現状に合わせ、様式から削除いたします。

本規則の施行につきましては、令和5年4月1日からとなります。

説明は以上でございます。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
ただいまの説明につきまして御質問、御意見等ありますでしょうか。
- **教育委員（長井知子君）** 主な改正理由が書いてあるんですけども、現状に合わせたということで実質夏休みが早くなったわけなんですけれども、ちょっと勉強不足なので、何で早くなったのかとか、教えていただくとありがたいです。
- **こども課長（梅田浩二君）** これの一番の要因は、小学校に合わせるということで、やはりきょうだい、お兄さん、お姉さんの見えるお子さんについては、幼稚園の児童だけが幼稚園に行かなきゃいけないということになりますと、いろいろ休みを取ったりとか、そういったことで、そこに手間がかかったりとかいったことがあるということです。現状先ほど申しましたように、既に学校に合わせたような扱いをさせていただいておりまして、保護者の方もそういった形で御理解をいただいて、そういったことを進めております。一番の理由は、やっぱり小・中学校のお兄さん、お姉さんのお子さんたちに合わせるということが理由でございます。
- **教育委員（長井知子君）** ありがとうございます。
- **教育委員（小栗照代君）** 現状はこの改正後のことを続けていらっしゃるといったのは、何年ぐらい前からこういった状態ではあったんでしょうか。
- **こども課長（梅田浩二君）** いつからと言われると、ちょっとはつきりは分かりませんが、もう既に今現状いる職員がいるより前からになっておりますので、相当以前からだと思われれます。

○ **教育委員（小栗照代君）** そういった状況であったものを、こういった改正ということに結びつかなかったというのはどういう理由なんでしょうか。

○ **こども課長（梅田浩二君）** 実態として、重要事項説明書という毎年説明をさせていただいて、取扱いをさせていただいておりますけれども、そこでやり取りができてしまっていたということがございます。本来実情に合わせてこういった改正をすべきところでしたけれども、それができておらなかったということで、実情に合わせて今回改正をお願いするという形でございます。

○ **教育委員（小栗照代君）** ということですと、本来ですともっと早くに改正してやっていけばよかったことかなあとと思いますので、ほかの点でもそういったことがないか確認していただきたい。そして、保護者の方々にも御理解のほうをより一層していただけるようにしていただくといいかなと思います。

特にお金の話は、多分私立の幼稚園でも延長ですと料金がありますし、保育園などでも50円ということで払っていらっしゃると思うんですけども、こちらの園に関しては今まで払っていなかったということだと思しますので、そうするとやっぱり違いも出てくると思いますし、そういった点でもしっかりと今までのものを見直ししていただいて、現状と違うところを把握していただくといいかなと思います。ありがとうございます。

○ **こども課長（梅田浩二君）** 御指摘ありがとうございます。

今、御指摘いただいたように、そういった漏れがないように今後努めてまいります。よろしくお願いたします。

○ **教育長（堀部好彦君）** ほか、よろしかったでしょうか。

〔挙手する者なし〕

では、ほかには特にないようですので、この件については原案のとおり承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、この件については原案のとおり承認をいたします。ありがとうございました。

各課所管事項

○ **教育長（堀部好彦君）** 続きまして、各課所管事項に入ります。

○ **事務局長（渡辺勝彦君）** それでは、私からはコロナの状況についてです。まずお手元にグラフが棒グラフと折れ線グラフとなった資料を配っておりますので、御覧ください。

まず折れ線グラフのほうを見ていただきますと、これは今年度の可児市内の新規感染者数、1週間分の新規陽性者の状況の数を記載しています。

これを見ていただくと、世間一般で言われる感染者数の増加と可児市の状況はほぼ同じような動きをしています。例えば、6月27日は一番少なくて1週間合計で49人だったのが、8月の週の第7波の頂点では1,479人となっています。これが一旦下がって、第8波の1月11日の値は1,471人となり、非常にまた増えているというのがこれでよく分かります。

裏面に市内小・中学校の感染状況で、左側が月別の陽性者数、右が学校別になります。

これも同じような動きで、8月が844人ということで最高になっています。一旦落ち着いたものがまた第8波で増えている状況です。

新型コロナウイルス感染が広がって3年以上になろうかと思いますが、この第8波による市内の小・中学生の陽性者数、これは7月から9月にかけてが非常に多いわけなんです。第7波は夏休み、第8波も冬休みに重なっていました。学級閉鎖の基準が見直されてきたということから、陽性者数の割には学級閉鎖とする数は、昨年と異なって非常に少なく済んでいると思います。教育委員さんのほうにお知らせするのも、昨年は非常に多かったんですが、今年は陽性者数に比べると非常に少ないと思います。ただ、この新規陽性者数だけで見ると、一昨年は年間を通じて30人ぐらいだったのが、昨年は年間で600人ぐらいです。しかし、今年度は既に3,000人ぐらいの陽性者が出ているということで、数だけ見ると非常に多いということが分かっております。

こうしたウイルスの特性の変化による重症化リスクの変化とともに、陽性者や濃厚接触者への対応とか、学級閉鎖の基準が、国のほうもその都度見直しをしてくれているところですが、昨今のニュースで見ると、感染症の類型を2類相当からインフルエンザ等と同じような5類に見直すというような検討も始まっているようです。

ただし、岐阜県においては医療機関の病床使用率が50%で推移していたというようなことから、昨年12月23日、全国で初めて医療ひっ迫防止対策強化宣言というのが発出されています。それからまた今日、多分午後から行われる県の対策会議で、この宣言が来月の中旬まで延長されるというふうな見込みでもあります。決して油断できないというような状況ですが、市内小・中学校では、国が示す対処方針等の変更なんかも注視しながら、引き続き感染予防対策に努めていくことになると思いますので、よろしく願います。

それからあと1点、最近の市政の状況です。

可児市では、課題解決に向けて行政と民間が連携するというような、個々に連携を呼び込もうということで、これは既に始めていたんですが、各担当課で個別に対応していた窓口を秘書広報課に一元する公民連携ワンストップ対話窓口というのを1月4日から設けています。これまで各課の本来業務もあって、民間からの提案を十分に精査することができないという面もあったのが、窓口の一本化で秘書広報課が役所内の調整役を担い、複数課にまたがる事業や、民間からの提案をレスポンスよく向上して、対応していくという感じになるようです。

現在可児市では、市単独ではなかなか解決できない様々な地域課題について、それを課題解決の一つの手段として、公民連携に力を入れていきます。窓口の一本化は、こうした取組を強化する体制づくりでもあります。今年度、飲料水メーカーとの連携で、提携取組が始まったIoTを活用した子供の見守りサービスや、これから始まっていくペットボトルのボトルt o ボトルのリサイクル事業、そういった一環になってくると思います。窓口一本化については、1月5日の中日新聞の朝刊にも掲載されていましたが、一応情報として知っておいていただければなあと思います。

私からは以上です。

- 教育長（堀部好彦君） ありがとうございます。
- 教育総務課長（飯田晋司君） 私からは、報告・連絡事項、各1点お伝えしたいと

思います。

1つ目に、令和5年度に向けた小規模特認校の進捗状況についての報告です。

前回の教育委員会会議でも報告させていただきましたけれども、申込者が3世帯3名となっております。3名とも指定校変更制度を既にご利用しているお子さんたちで、内訳は新2年生1名、この子が今渡北小学校区、それから新5年生2名、この2名とも桜ヶ丘小学校区という状況でございます。今月中に入学の可否について決定して、申込者に連絡をするという形で今動いております。

2つ目ですけれども、連絡事項でございます。

お手元にお配りしております資料、县市町村教育委員会連合会ホームページ「教育委員徒然日記」に関わるお願いというのがございますが、こちらを見ていただきたいと思っております。

県の市町村教育委員会連合会のホームページに「教育委員徒然日記」というコーナーがありまして、毎月市が1つ、それから町村1つの教育委員のエッセイを順に掲載しているというものでございます。以前、この企画が始まった頃に、教育委員会会議の場で前任の石原から、順番が来たら執筆をお願いしたいと話しておったというふうに聞いておりますが、順番で可見市が第14回の担当として令和5年4月掲載となりました。先ほど伊藤委員に執筆をお願いして、快くお引受けいただいたというところでございます。この先企画が続いていけば、次の可見市の順番が再度また順番で依頼をさせていただきますので、その際はよろしくお願いたします。以上でございます。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ **学校教育課長（佐野政紀君）** 12月15日以降、学校に関わる動きをお伝えします。

年末年始は、おかげさまで命に関わる大きな事故・事件の対応は一件もございませんでした。本当にありがたいことです。

一方、コロナについてですが、小・中学校合計483名、教職員は27名の陽性判明の報告がありました。学級閉鎖は5校5学級ありました。現在、閉鎖している学級はありません。

県内では、校内において多くの教職員が陽性となって休むこととなり、学校運営に支障が出る事例も生まれています。学校における教職員の感染拡大防止については、これまでも大切にしてきましたが、市内の学校に配慮いただきたいことを継続して指導しております。例えば、抗原検査キットで陰性が確認されても、体調不良時は出勤を控えることを徹底しております。また、職員室以外の部屋なども活用して、なるべく密を避けるとともに、小まめな換気についても意識づけをしております。寒くなってきておりますが、暖房時であってもサーキュレーターや換気扇等を使用して、空気の入替えを実施させております。

また、共用する器具や、器械も含めてですが、定期的に消毒を行うとともに、使用後は各自で手洗いや手指消毒を確実に行うように繰り返し指導をしているところです。

前回の教育委員会会議でも、学校では、心配される児童・生徒に対して家庭への電話連絡等を行い、学校始まりを迎えられるように配慮する指導をしていくこととお話しさせていただきました。繰り返し、希死念慮については後ほど担当のほうからも報告をさせていただきますけれども、12月15日以降、2事案の報告を受けております。引き続き

注視していきたいと思っております。

最後です。先ほど教育長報告にもありましたが、私のほうからも補足をさせていただきます。

可児市教育実践論文審査会がございました。本年度は29名の報告がありました。学び続ける教職員の取組の一つに、自身の実践をまとめるという営みがあります。個人のテーマを設定して論文を作成するというものですが、昨日はその提出された論文を審査するという会議がありました。私も審査員の一人として同席をさせていただきました。

審査の結果、優秀賞5名、優良賞7名を選出して、上位4名につきましては今後県の審査に送り出していきます。テーマは、教科であったり、特別支援教育であったり、ICT活用をテーマにしたもの、教育長の報告の中にありましたが、可児市ならではの多文化共生を視点にしたもの。今年度は、特筆すべきこととして、栄養教諭、給食センターでお勤めいただいておりますが、中学校籍は中部中学校になります。栄養教諭からの実践論文のエントリーもありました。

この取組は、教員の資質向上にもつながり、教員の成長するための大切な姿として捉えております。教職員のキャリア・パスポートと言い換えることもできます。教職員の頑張っている姿の一つとして報告させていただきました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ **教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君）** では、別冊の教育研究所よりの冊子を御覧ください。

1枚はねていただき、3ページを御覧ください。

先月行った研究所の運営委員会で確認した次年度の方向について、教育委員の皆様へ直接関わる点についてお話をさせていただきます。

まず(1)－①「笑顔の学校」公表会については、前回のこの会議でお話をさせていただきましたが、来年度もウェブ公表会として開催しますので、よろしく願いいたします。

もう一点です。(1)－②研究所主催の研修の4つ目です。特支育成会役員会・連携協議会についてですが、旅費の規程が厳しくなり、役員会という名称では旅費が出なくなっております。役員会という名称ですが、実は全ての学校の先生、担当する先生が役員として出席していただいておりますので、特別支援教育育成会全体会という名称に変更させていただきます。会自体の内容の変更はございませんので、御承知おきをください。

次です。もう一冊、別冊でカラー刷りですが、令和4年度教育評価のまとめについてお話をさせていただきたいと思っております。写真が貼ってあるものです。

では、表紙裏面の1ページから2ページをまず御覧ください。

この教育評価ですが、毎年市内全ての先生方に、第2期可児市教育振興基本計画に基づいて設定した12項目30観点で今年度の教育活動について自己評価をしていただいておりますが、それをまとめたものとなっております。

ここでは可児市としての主な点について説明をさせていただきますので、4ページを御覧ください。

令和元年度からの経年変化が示されておりますが、今年度の全30観点の評価平均は、昨年度と全く同じで3.34となりました。特に数値が高かった観点ですが、まず9番のQ

ーUを活用した積極的な生徒指導、11番のカウンセラー等と連携した教育相談の充実、21番の管理職等のリーダー性、28・29番の学校からの情報提供となっております。

また、昨年度と比較して上昇幅が大きかったのは、1番の笑顔の学校を目指した取組と、6番のふるさと教育の推進の2点です。この結果につきましては、皆さんにも御視聴いただいた笑顔の学校公表会を一つの柱として、1年間を通して帷子小学校、旭小学校、東明小学校の3校が自校の「笑顔の“もと”」を明らかにし、それを育むために、子供たちはもちろんですが、地域の協力も得ながら特色ある学校づくりを行っていただいた成果であると考えます。また3校以外の学校も、発表こそはしてはおりませんが、それぞれが「笑顔の“もと”」を明らかにして、特色ある教育活動を行っていただいた成果であると捉えております。

逆に、3番のICTの活用ですが、昨年度と比較すると下がり幅は大きいですが、評価数値としては必ずしも低いわけではありません。この観点は、令和2年から3年度に大きく上昇していますが、これは令和3年度に1人1台タブレットが配付されて、積極的に活用された結果であると思われまます。そして、今年度はさらに効果的に活用したいと多くの先生方が前向きに考えてくださった表れであると考えます。ですので、研究所としては、今年度もより有効的な使い方や、より使いやすくなったソフトの導入、月1回の支援員の訪問などを行って学校を支えてまいりましたが、先生たちの要望に応えるために、今後もどんどん使っていただけるような提案をしていく必要があると捉えました。

教育委員会としましては、このデータを分析しながら、来年度の可児市学校教育の指導の方針と重点の作成に生かしております。また、学校には学校別のデータもお渡ししておりますので、各学校で分析をしていただき、来年度の教育課程の編成に生かしていただいているというところでございます。以上です。

○ 教育長（堀部好彦君） ありがとうございます。

○ 学校給食センター所長（佐藤一洋君） よろしく申し上げます。

今月ですけれど、26日に「笑顔の“もと”」給食というのを実施します。今年度「笑顔の“もと”」ロゴマークを作成しました。そちらを子供たちにもよく知ってもらおうということで、メンチカツにこのロゴマークをプリントしたものを提供する予定です。

それから2月になります。2月14日火曜日に、中部中学校の学び献立と市制40周年記念献立、2つ兼ねたものを提供する予定です。献立としましては、菜飯とシラスの麦御飯、豚汁、空揚げのネギソース、豆コーンサラダ、豆乳プリンを予定しております。こちらは中部中学校の1年生を対象に、毎年中部中学び献立ということでテーマを決め、子供たちに献立を考えてもらうことを食育の中でやっています。そちらのほうと市制40周年を絡めました。

今回のテーマは、可児市の未来を担う小・中学生に食べてもらいたい献立としています。この献立のコンセプトは、麦御飯を多く食べられる献立で、麦御飯の食品ロスが減るようにということで、シラスや菜飯を入れて食べやすくしています。また、シラスを入れることでカルシウムを十分取れるようにということを考えてくれました。

あと、それから空揚げのネギソースのネギとか、豚汁のみそが可児市のものということで、地産地消の食材を使うみたいな工夫もされていると。あと、それから豆乳プリン

ですけれど、乳製品のアレルギーがある子でも食べられるということで豆乳プリン、そういったことを考えてくれて、食品ロスとか、地産地消、それからアレルギー対策、そういった3つのことを考えてくれた献立ということになります。

そういうことで子供たちもいろいろと考えてくれているということでございます。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

各課からの報告につきまして、御質問、御意見、御感想どうでしょうか。

○ **教育委員（長井知子君）** 教育研究所へ質問です。先ほど御説明いただいた4ページの23番です。これは働き方改革の件だと思うんですけど、ちょっとポイントが下がっています。現場の先生方からは、何かこういった相談とか、悩みだとかはあったりしましたか。

○ **教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君）** ありがとうございます。

それにつきましては、3ページのほうも御覧いただいでよろしいでしょうか。

同じく23番ですよ。これは小・中学校別のものになっております。実は中学校はピンク色になっておりまして、働き方改革が進んでいると、先生方がいほうに捉えてくださっている結果なんです。小学校のほうはちょっと青色ということで、昨年度に比べると低くなっています。実は、これは各学校の同データを見ますと、小学校のある学校でちょっとぐっと下がったんですね。やはり配置がきちんとできなかったという部分が大きいという結果が現れております。先生方からもいろいろな意見を得るんですけども、その2校に関してが、ちょっと大変やったというような御意見がありました。全体的に見ると、負担感が増えたとか、そういうような感じではありませんでした。以上です。

○ **教育委員（長井知子君）** ありがとうございます。

○ **教育長（堀部好彦君）** ほか、よろしいでしょうか。

○ **教育委員（小栗照代君）** 私も研究所に質問ではないんですけども、先ほどちょうど校長先生がおっしゃっていた話をお伝えします。公表会拝見させていただきました、よかったですというお話をしたんですけども、実際どうでしたかというお話を校長先生にしましたら、ウェブ公表会だったので、実際にやると、その日の当日の準備であったりとか、PTAの役員さんに駐車場を整理していただいたりとかということで、かなり動いていただいたりとかという準備も大変なので、そういう点で大変助かりましたというお話がございました。直接先生方に見ていただくということももちろん大事ですけども、こういう形で動画に収めていただけるという方法も大変よかったかなあというふうに思いました。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

公表会については、先ほども教育研究所からの報告にありましたように、来年度もウェブの公表会でというのを考えております。よい面が幾つかあったので。

加えてというか、一方で小栗委員も御指摘でしたが、直接子供たちの姿を見る、先生の指導の様子を見るということも本当に大切ですので、公表会は今年度と同じようにやるんですけども、教科研究会とって教科研という組織があるんですけども、それでいつも持ち回りで授業を公開して見合うという、市内の先生がね。そういった組織もありますので、その取組をより充実していくことで、実際に対面での研究会ということも

大切にしていこうというその両輪で進めていくというふうに考えておりますので、またよろしく願いいたします。

- **教育委員（小栗照代君）** あと、コロナについていろいろ御報告いただいてありがとうございます。これからインフルエンザも今年にはやるという、両方はやるというような話もありますが、実際今学校ではどのような状態でしたか。
- **学校教育課長（佐野政紀君）** 飛躍的な報告はなく、コロナとインフルエンザ併用しての罹患がどうなのかということに注視しているところです。子供たち、教職員ともに、今のところ、ここで強く報告しなければならないという現状は出ておりません。
- **教育委員（小栗照代君）** 分かりました。ありがとうございます。
それと、もう一つすみません。
給食のことで、メンチカツにロゴマークをとということで、どういう形でロゴマークをおつけになるのかなと興味があったんですが。
- **学校給食センター所長（佐藤一洋君）** メンチカツの衣の一部を春巻の素材、皮をつけて、要は衣がついていないような状態になりますけれども、その春巻の皮のところに、食べられる素材でプリントしています。
- **教育長（堀部好彦君）** 今、多分写真を取りに行ったんじゃないかなと思います。なかなか面白いよ。
- **教育委員（小栗照代君）** それも食べられるわけですね。
- **学校給食センター所長（佐藤一洋君）** 食べられます。過去には、光秀とか、ミナモとか、そういうのを載せて出していることがあったので。
- **教育委員（小栗照代君）** いろいろ工夫していただいてありがとうございます。ぜひ食べてみたいですね。
- **教育長（堀部好彦君）** ほか、よろしいですか。
では、私から2点お願いします。
小規模特認校についての報告、教育総務課長から受けました。ありがとうございます。今年2年度なんだけど、初年度大変いい、初年度から何人やったっけ。
- **教育総務課長（飯田晋司君）** 純粋に小規模特認校ということだと8人だったかな。
- **教育長（堀部好彦君）** 8人だね、分かりました。
初年度、8人純増で増えていると。初年度からこんなに増えるってすばらしいなあ話をしました。今年度は、2年目に募集したら、純増では実質の増加はゼロということですかね。今後推移を見守っていく必要があるんだけど、これについて、教育総務課長としてはどういうふうに捉えておられますか。8人、ゼロ人。
- **教育総務課長（飯田晋司君）** そうですね、まだちょっと分析はしていないんですけども、初年度で初めてそういうことに触れられたというか、その情報に遭われた保護者・児童のみんなが、やっぱり特にそれについて、活用に対しても反応があったということがあったのかなあというふうに考えています。
今回、来年度に向けては、先ほども御報告したんですけども、既に小規模特認校でなく指定校変更で通っているお子さんが3名、来年度はこの制度を使って通われるということで、年によっての差がこういうふうに出ることもあるかなあということぐらいしか、今の時点ではちょっと何とも言えないんですけども。

- **教育長（堀部好彦君）** そうですね。初年度は、新たな取組ということで新鮮に受け止められたということは当然あるんでしょうけれど、今後もこれは宣伝というか、小規模特認校のよさ、小規模特認校の制度を利用して通っている子たちの学び、その辺りを日常的には言わないんだけど、募集をするときにだけではなくて、何か上手に宣伝をすることはできないかなあというふうには思っておりますので、その辺りを検討いただくと大変ありがたいなあと思います。よろしくをお願いします。

〔ロゴマーク入りメンチカツ写真 資料配付〕

- **教育長（堀部好彦君）** ああ、これはさっきのやつです。

- **教育委員（小栗照代君）** ありがとうございます。

テレビを見ていたんですけれども、そのときに特色のある学校に子供を入れたいということで、市外や県外とか、遠いところからわざわざ引っ越しをしてきてというようなテレビをやっておりました。それは親さんが都会にいて、田舎というか、そういった自然のあるところで子供を育てたいという御意向で、お試しで一度4週間学校に入ってみたいのを特集でやっていました。そういう意味でいいますと、兼山小学校も大変特色があって、そして市内だけではなくて、今後のことになってきて、それは私たちの範疇のことじゃないかもしれないんですけれども、県外の方にもアピールをして、可児市の人口も増えるということももちろんあるでしょうし、兼山の人口も減っているのが増えてくるというのもあるかもしれません。最終的にそこに子供さんたちが、その学校でぜひ勉強したいんだというような御家庭の方が入ってくださるように進めていけたらいいなあというふうに思います。

- **教育長（堀部好彦君）** これは他部局との連携というか、市長部局の取組の人口増加ということですからね。

- **教育委員（小栗照代君）** もありますよね。

- **教育長（堀部好彦君）** 分かりました。

ほか、よろしいでしょうか。

〔挙手する者なし〕

給食の写真、今プリントアウトしていただきましたので、そういった形で出るよということで、子供たちはこの献立についてはもう出ているので、知っているということなんです。

- **学校給食センター所長（佐藤一洋君）** そうですね、はい。

- **教育長（堀部好彦君）** このロゴマークを考えてくれた女子生徒はとっても喜んでおるやろうなと思いますね。本当にありがとうございます。

それでは、以上で各課からの報告を終わりたいと思います。

委員からの提案協議事項

- **教育長（堀部好彦君）** では、教育委員からの提案協議事項につきまして議題としますが、何かございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

〔「なし」の声あり〕

ありがとうございます。

その他

- 教育長（堀部好彦君） では、次にその他の次回の日程等について。
- 教育総務課長（飯田晋司君） 先月決めていただきました2月17日金曜日午前9時からお願いいたします。場所はここ、市役所4階第3会議室です。

なお、午後1時半からは総合教育会議を開催しますので、よろしくをお願いいたします。

また3月の日程ですけれども、ちょっと事前に委員の皆様を確認を取らせていただきました。特に御都合は問題ないということで、3月27日月曜日午前9時からでお願いしたいと思います。

- 教育長（堀部好彦君） では、2月は17日9時から、3月は27日9時からということをお願いをしたいと思います。

このまま続けて議事を進めてよろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

ありがとうございます。

（以下非公開）

（以上非公開）

閉会の宣告

- 教育長（堀部好彦君） これにて教育委員会会議を閉会します。ありがとうございました。

閉会 午前10時37分